

# 牛久：学校周辺に見る自然

第19号 牛久二小

2012年7月20日発行

＜ 梅雨の晴れ間の校庭で ～動物のすがたを観察しました。 ＞

前号まで、ひたち野うしく小3年生との水辺公園での観察を紹介してきましたが、牛久二小でも、ビオトープのある校庭で、バッタやチョウなどの昆虫を中心に、生き物観察をしました。もうすっかり梅雨も明けてしまったので、写真はまだまだたくさんあるのですが、「梅雨の観察シリーズ」はこの号で終わりにしたいと思います。



まずは、花にみつを吸いに来ていたシジミチョウの仲間3種類。シロツメクサに来ていたツバメシジミ（左）、ベニシジミ（中）と、ヒメジョオンに来ていたヤマトシジミ（右）です。みつを吸うときには、長いストローを花にさしこんでいますね。

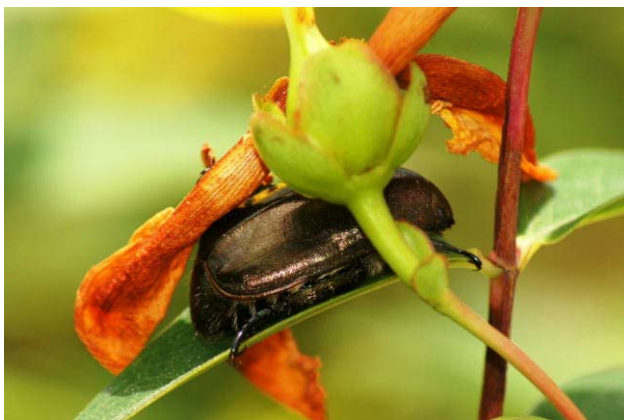


シロツメクサのみつを吸うツバメシジミ（左）、ベニシジミ（中）と、ヒメジョオンのみつを吸うヤマトシジミ（右）。



花に来るチョウやハチなどを待ちぶせしている虫もいます。左は、ビヨウヤナギの花に来る昆虫たちを待ちぶせしてつかまえようとしているササグモです。黒いトゲのような毛が特徴で、なんだかこわそうな感じがしますね。その他、ハナグモの仲間なども、よく花のかげにかくれて待ちぶせしています。花にいる虫がすべて、みつや花粉を食べに来ているわけではないのですね。

ビヨウヤナギの花にかくれて、え物を待ちぶせするササグモ。



同じビヨウヤナギに、かくれるようにして休んでいるドウガネブイブイがいました。ブドウの害虫として知られますが、けっこういろいろな木の葉を食べるようです。銅色の金属光沢が迫力ありますが、これでも草食昆虫なのですね。それにしても、葉としおれた花の間に、うまくかくれたものです。このように、植物は動物の食料になるだけでなく、かくれがにもなるのですね。

ビヨウヤナギの花にかくれて休む、ドウガネブイブイ。



ビオトープのアンズの<sup>えだ</sup>枝でも、翅（はね）を休めている昆虫がいました。この時期、よく見かける赤とんぼの仲間、**ノシメトンボ**。シオカラトンボに似ている**オオシオカラトンボ**。複眼（ふくがん）も含め、顔全体がまっ黒なのでシオカラトンボと見分けられます。セセリチョウの仲間、**キマダラセセリ**もいました。よくさがすと、けっこういろいろな虫たちがかくれていますよ。

アンズの枝で翅（はね）を休めるノシメトンボ（左上）、オオシオカラトンボのオス（右上）、キマダラセセリ（下）。



ビオトープの近くでは、5月下旬に何種類かのバッタをつかまえましたね。その時にはショウリョウバッタの幼虫<sup>ようちゅう</sup>やヒシバッタなどが大部分でしたが、今回は**トノサマバッタ**の幼虫など、いろいろな種類が出てきました。幼虫ははねが<sup>はったつ</sup>発達していませんね。どのようにして翅（はね）が伸びてくるか、観察しましょう。

ヤブガラシの葉をむしゃむしゃと食べているグロテスクな幼虫もいました。**セスジズメ**というガの幼虫で、サツマイモやサトイモの害虫でもあります。うちの農園でも、コンニャクの葉をまるはだかにされたこともあります。

まだ翅（はね）が発達しないトノサマバッタの幼虫。



ヤブガラシの葉を食べる、セスジズメの幼虫。



池には、**メダカ**の群れ<sup>むれ</sup>が泳いでいました。みんなでガヤガヤしていたからでしょうか、水草の間にかくれるようにして泳いでいましたね。

水草の間にかくれるように泳ぐ、メダカの群れ。



短く刈りこまれた草はらでは、ムクドリが盛んに地面をつつきながら、歩きまわっていました。灰黒色の体にオレンジ色のくちばしと脚、白いほほが特徴で、木の実も食べる雑食性の鳥ですが、この日はミミズなどの虫を探していたのでしょうか。  
←さかんに地面をつつきながら、えさを探し歩くムクドリ。



ドクガ科のモンシロドクガ（左）とキドクガ（右）の幼虫。ドクガ科の多くは、卵から成虫まで、一生、毒針毛をもつ。

見るからに刺されたら痛そうな、どくどくしいもようの幼虫も見つけましたね。どちらもドクガの仲間の幼虫で、左の幹の上を速いスピードで移動していたのがモンシロドクガの幼虫。右の葉を食べていたのがキドクガの幼虫です。ドクガの仲間は、この2種も含め、卵から幼虫、まゆ、成虫と、一生、毒のある針毛をもっているものが多いです。この派手なもようは、「毒があるからさわんなよ！」という警告なのでしょう。



さくらの幹には、ヨコヅナサシガメがいました。黒い体に赤いもよう、両わきにはり出した黒白のしまもようが特徴の肉食カメムシで、幼虫がたくさんでかたまっていると桜の害虫と思われがちですが、葉を食べる害虫などの体液を吸いとるので、益虫といってもいいかもしれません。

【理科支援員：宮内】

えものを探し歩くヨコヅナサシガメ。木の葉を食べるガの幼虫など、昆虫の体液を吸って生きる。